

# 平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 折尾西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 折尾西 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を毎年、上回っているものの、漢字の読み書きなど今年も基本的な内容の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・文の中における主語を捉える問題については、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国との差が徐々に広がり、今年は特に大きかったことから、これまでの取組が評価できる。今後も自分の考えを具体的に書く指導に重点を置く。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題については、正答率がやや低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均より毎年、徐々に上回っているものの、昨年同様、計算など基本的な内容の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・式で表現された数量の関係を図と関連づけて理解することをねらう問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・異分母の分数の減法の計算をする問題は、正答率がやや低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・毎年、全国平均より上回っているものの、特に図形をかくなど表現する能力に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・条件を変更した場面に面積を2等分する考えを適用して示された部分の面積を求める問題の解答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量を求める問題の正答率がやや低かった。	

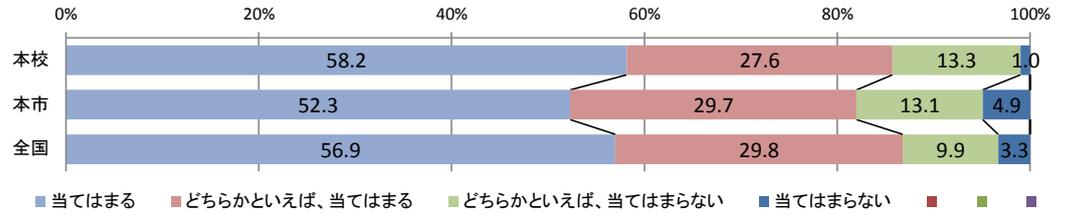
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国との差は、前回より一層広がったことから、これまでの取組が評価できる。今後も理科専科の担当を中心に指導に当たる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・水の温まり方を考察するために実験結果を基に自分の考えを改善することをねらう問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・水が水蒸気になる現象について、その名称を書く問題の正答率がやや低かった。	

③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

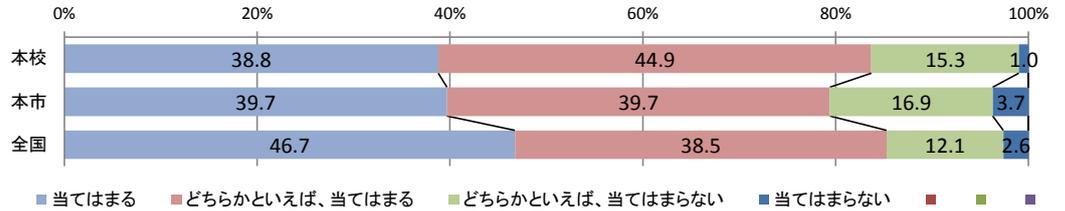
38

授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



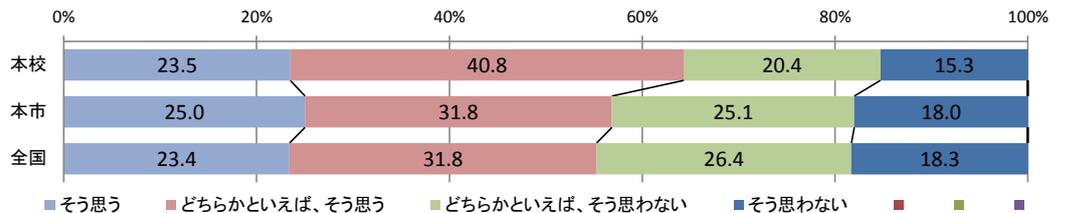
39

授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。



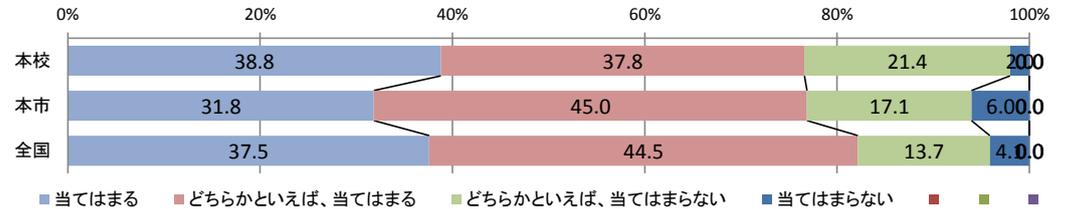
45

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。

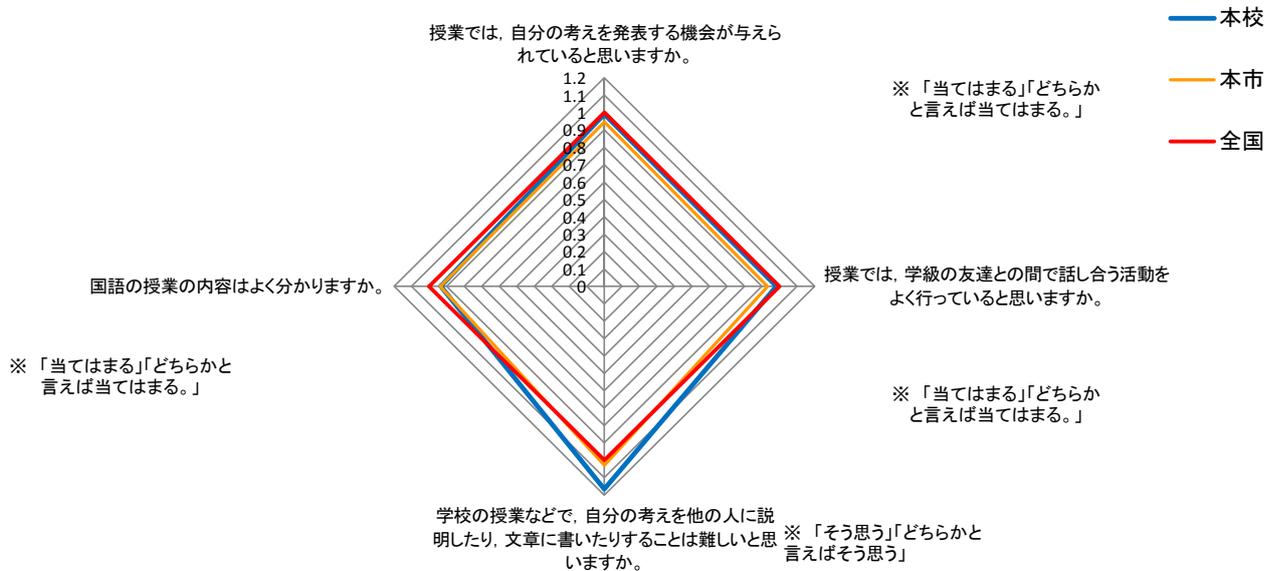


50

国語の授業の内容がよくわかりますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・自分の考えを発表する機会が与えられていると答えている児童は、年によって差がある。学習の進め方にばらつきがあると考えられる。全校で発表する機会を増やす授業を行っていく。

・話し合い活動は、全国平均を上回ったり下回ったりしている。こちらも、学習の進め方にばらつきがあると考えられる。全学習の中で話し合い活動を多く取り入れた学習に取り組むようにする。

・年々、文章を書くことに抵抗感をもっている児童が減少はしているものの、依然として4割強いるが、学力調査の結果から、書くことに関する問題について全国平均を上回っている。昨年同様、今年も自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書いたりする活動を位置付けるなど楽しんで書く活動を授業に取り入れる。

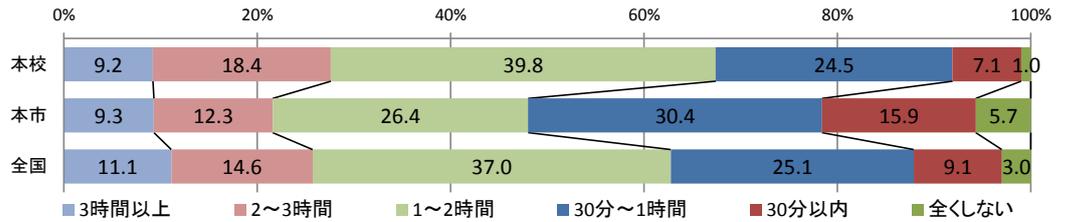
・国語の授業の内容がよくわかると答えた児童が年々減少している傾向がある。これまでの授業のあり方を見直し、改善し、児童がわかる授業づくりに取り組む必要がある。

## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

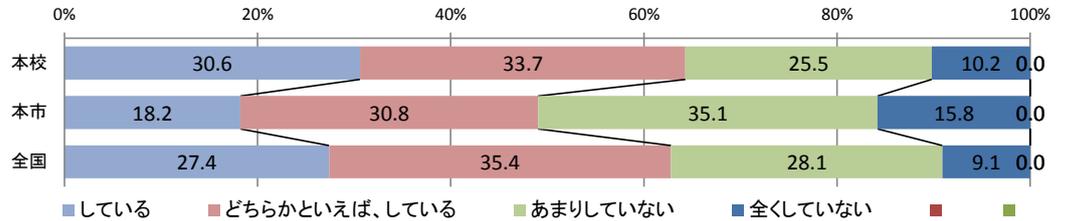
### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

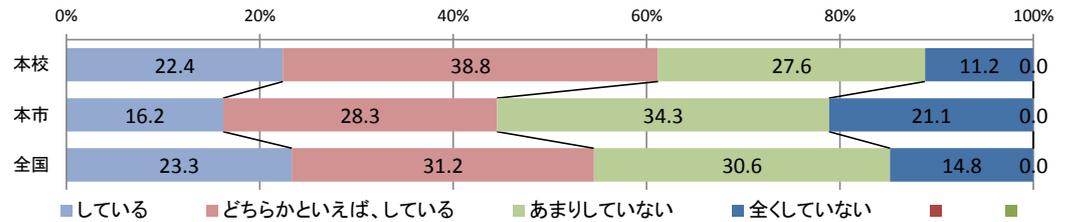
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



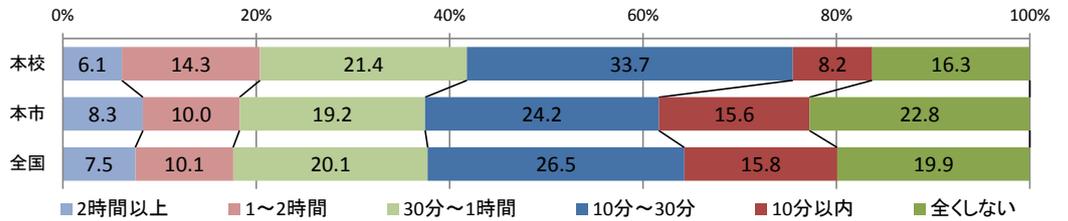
20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



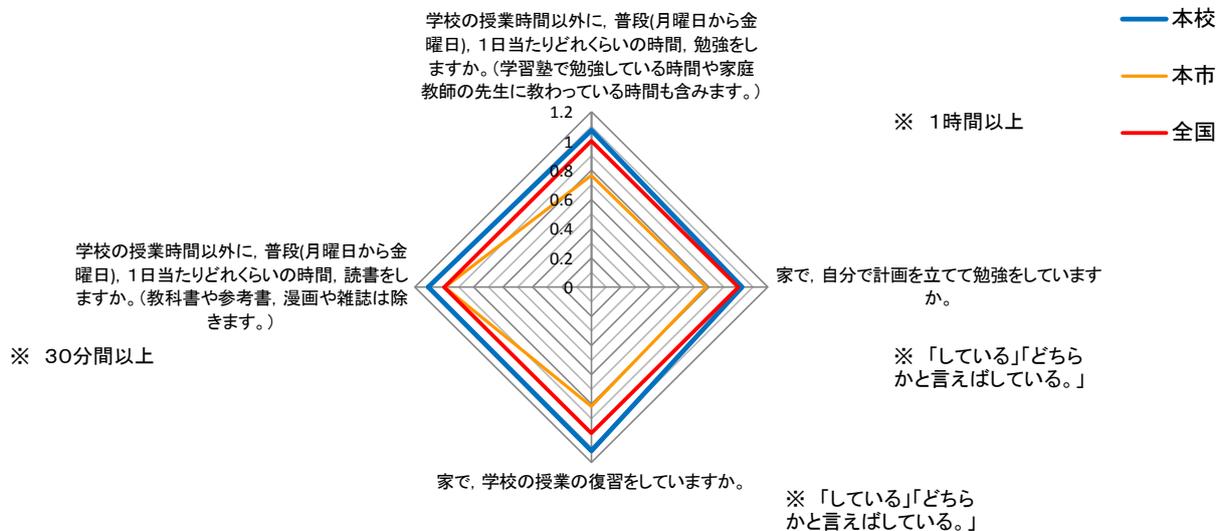
23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)をしますか。



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

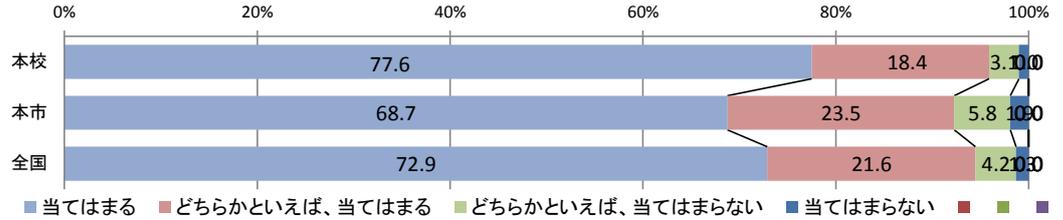
・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、昨年と比べ、かなり増加している。昨年同様、今年も、家庭学習チャレンジハンドブックを活用して時間の目安や、家庭学習の具体的な取り組み方をすべての学級で共通理解し、指導していく。

・自分で計画して勉強している児童の割合も、昨年と比べ、かなり増加している。また、授業の復習をしている児童の割合も、毎年、全国よりもかなり高い。

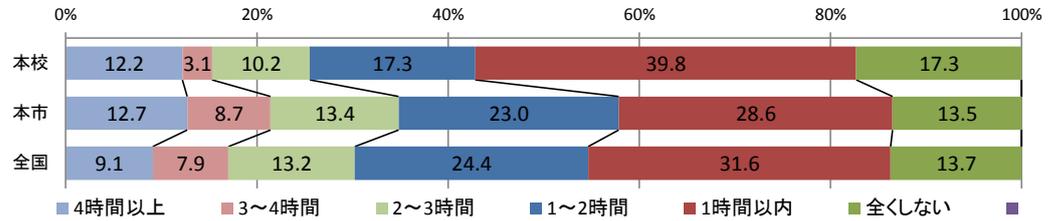
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

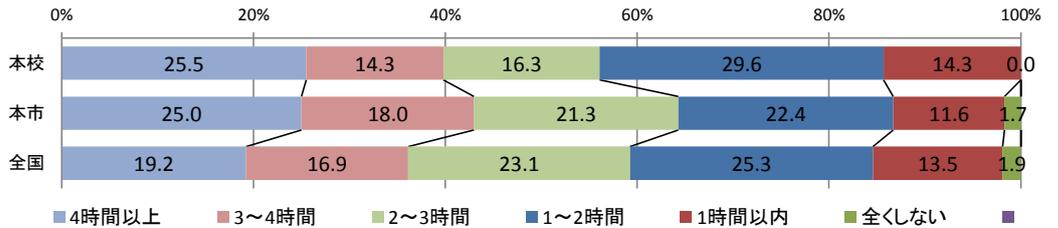
4  
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



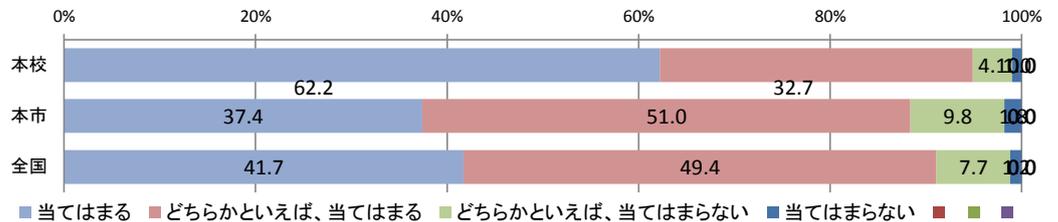
11  
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。



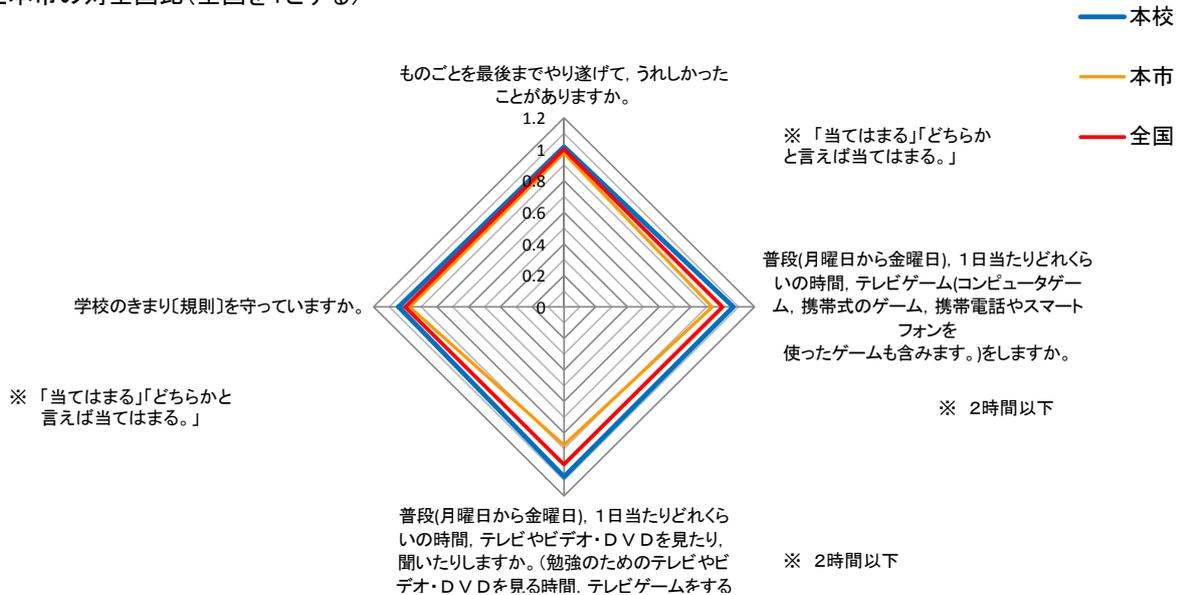
10  
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)



32  
学校のきまり[規則]を守っていますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・学校のきまりを守ることやものごとをやり遂げてうれしかったことに関しては、全国より高く、9割以上の児童が当てはまると答えている。  
 ・テレビ等の接触時間は減っている状況であるが、依然として4割強の児童が1日2時間以上見ている。  
 ・テレビゲーム等に関わる時間は、全国より低い、2割強の児童が1日に2時間以上、テレビゲーム等をしている実態がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎学力向上に関する職員会議の定期的な実施 ・全職員で問題を解く。(学テ・CRT)→課題の共有化
- ◎学力向上のための特設時間の実施
  - ・チャレンジタイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に実施 ・7年生によるチャレンジタイムの補助(現行のまま)
  - ・チャレンジタイムの取組内容計画表作成(学力向上部会・各学年) ・国語、算数の過去問題、アシストシート等の用意
  - ・小中連携サポーター、学生ボランティア…プリント整備、活動補助
- ◎過去問題、アシストシート、WEB問題の活用
  - ・単元末に過去問題やWEB問題を位置付け「力だめし」をする。
  - ・アシストシートを宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しを行う。・過去問題等を冊子にして、「宿題プリント」とする。
- ◎「書く」ことの習慣化
  - ・1単位時間の学習の中に、考えて書く活動を必ず位置付けるようにする。
  - ・学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くようにする。 ※連絡帳に3行程度の「ミニ日記」を書く。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
  - ・自主学習ノートの活用をする。(国語科算数科の復習を中心とした内容)
- 中学年以上週1回以上提出※ノートを評価し、よい内容のノートを他の児童へ紹介する。
  - ・家庭学習時間の設定する。  
(学年×10分以上 1年10分以上 2年20分以上 3年30分以上 4年40分以上 5年50分以上 6年60分以上)
  - ・「家庭学習の約束」の作成・実施する。
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用をする。
- 2学期末と3学期末に提出※家庭学習について評価し、よい学習している児童を他の児童へ紹介する。
  - ※家庭学習マイスター賞への応募する。
  - ・冬休み、春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。  
(個人の課題に応じたアシストシートを全児童に配布し、指導に当たる。)
- ◎全国学力・学力状況調査の課題と取組等保護者への周知
  - ・学校便り、学校HP  
(2学期末の個人懇談、3学期末にある学年末懇談会においても課題や今後の取組について説明する。)